

8月6日(土)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ
日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



**ダイナミックな大フィル
輝かしくミュージック初登場!**

©T.Tairadate

8/5 大阪フィルハーモニー交響楽団 西に大フィルあり! マエストロの十八番

この「フェスタサマーミュージック KAWASAKI」にも、3年前からは国内各地のオーケストラも1団体ずつゲストとして出演し、華を添えているのは御承知の通り。すでに仙台フィル、群馬交響楽団、京都市交響楽団、アンサンブル金沢が登場してきたが、今年はずいぶん関西の雄、75年の歴史を誇る老舗の大阪フィルハーモニー交響楽団(大フィル)が、音楽監督・尾高忠明とともにその姿を現した。同楽団がこのミュージア川崎シンフォニーホールのステージに登場したのは、実今回が初めてだったという。

しかもメイン・プログラムは、尾高が最も得意とするエルガーの作品——「交響曲第1番」なのだから、初

登場の出し物にこれほど相応しい曲はない。期待通り、この長大な交響曲が、かくも輝かしくダイナミックに、しかも親しみを以って鳴り響いた例は、国内オケの演奏の中でも稀有のものだったのではないか。「スターウォーズ」の「帝国のマーチ」に似た主題が出てくる第2楽章、そして豪壮なクライマックスのうちに結ばれる第4楽章。アンコールに同じエルガーの有名な「威風堂々」第1番を高らかに演奏し、聴衆を沸き返らせた演出も洒落ている。

プログラムの第1部は、これまた有名なラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」。尾高はかつて英国のBBCウェールズ交響楽団の首席指

揮者だった時代に、ラフマニノフの交響曲とピアノ協奏曲の全曲をCD録音したことがあるほど、これは得意のレパートリーなのである。今回はロシアの俊英イリヤ・ラシュコフスキーの奔放華麗なソロとの丁々発止の応酬。尾高と大フィルの「おとなの演奏」の魅力が、ここでも鮮やかに全開していたのだった。

(音楽評論家 東条碩夫)



左：イリヤ・ラシュコフスキー (ピアノ)
右：本日のマエストロ、尾高忠明

お客様から

オーケストラのフルコースを心ゆくまで堪能したようなエルガーの1番だった。アンコールの威風堂々では最後には感極まって泣けてきた。コロナを吹き飛ばすようなスケール感のある演奏を大フィルらしさなんだろうなと思いつつ、めいっばい楽しませてもらいました。また来てください! 待ってます!(60代・4階席大好き!) / はじめての大フィルで、音楽監督尾高マエストロのエルガー(アンコールつき)という、なんとも贅沢なプログラムに、仕事でささくれ立っているココロに保湿ローションいただきました。前半のラフマニノフ2番もソリストとの息ピッタリの名演でした。尾高先生、終演後も拍手で呼び出しちゃってスママセン…(会社員・ざぶら) / ラフマニノフのロマンティックなメロディとエルガーのエネルギッシュな音色にさらわれました。エルガーの低音濃いめの音色に徐々に低音好きの血が騒ぎました。(40代・低音大好き) / とにかく迫力が凄かったです!! 忘れられない公演になりました!(10代・うみのおと) / 大フィルは今回のサマーミュージックで楽しみにしていた演奏会の一つでしたが、とにかくすべての音の質が素晴らしくて、その一つ一つの音が「言霊」のようにホール全体に広がってゆくのは圧巻でした。(40代・らむ〜)

配信控え室から



サマーミュージックは配信も充実!
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。

**上記レビュー公演のアーカイブ配信は
8/7(日) 正午から開始!**

【出演】 指揮：尾高忠明
ピアノ：イリヤ・ラシュコフスキー *
【曲目】 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 *
エルガー：交響曲第1番
行進曲「威風堂々」第1番 (アンコール)
【配信限定コンテンツ】
オープニングインタビュー：
イリヤ・ラシュコフスキー (ピアノ)
休憩時インタビュー：須山暢大 (コンサートマスター)



今日の大フィルさん、音も映像もド迫力です。気持ちのこもった演奏のためか、コントラバスセクションの後ろにあるリモートカメラが揺れてしまっています。ステージ上の熱気も合わせてお楽しみください。(From リモートカメラ)



かわさきジャズ2022 あの太西順子が、ミュージーザに帰ってくる!



2018年のサマーミュージーザ 東京交響楽団オープニングコンサートの様子

2018年夏、サマーミュージーザのオープニング公演に東京交響楽団とガーシュウィン「ラプソディ・イン・ブルー」をトリオで初登場した時は、まさにミュージーザにカミナリが落ちたような「衝撃」であった。ジョナサン・ノット指揮の東京交響楽団を向こうに、太西順子トリオは驚異的な集中力でアドリブを15分以上も展開、まさに「平和的かつクリエイティブな大立ち回り」を演じてみせた。オーケストラだけでなく、満員の聴衆をスリリングな音楽絵巻に巻き込んでヤンヤの大喝采を浴びたのだった。

あれから4年、太西順子トリオは4名編成

のカルテットに進化し、それとは別に太西を慕うミュージシャンたちとオーケストラも結成した。カルテットは小編成の強みを活かし「音楽のパズル」のような緻密な構成力で魅せる。一方オーケストラは、厚みのある編成で様々な音色を編み上げ、そこへ名手のソロが散りばめられる豪華な玉手箱だ。

このように活動の幅も、表現力の多彩さも大きく進化し、この秋はミュージーザでどんな音楽を聴かせてくれるのだろうか……きっと色々な企てが進行中のはずだ。

(事業企画課 もと)

かわさきジャズ 2022 JUNKO ONISHI in Kawasaki

11月13日(日) 17:00 開演

【出演】1部 JUNKO ONISHI QUARTET
太西順子 [ピアノ] 井上陽介 [ベース] 吉良創太 [ドラム] 大儀見元 [パーカッション]

2部 JUNKO ONISHI presents THE ORCHESTRA
井上陽介 [ベース] 吉本章紘 [サクソ、フルート、クラリネット]

広瀬未来 [トランペット] 太西順子 [プロデュース] 他

【曲目】<予定曲>1部 Wind Rose、It's a Fine Day

2部 Naughty Ghost、Both Sides Now、Suite Estaciones 他

【チケット】S席¥6,000 A席¥5,000 U25(小学生~25歳)各席半額 好評発売中!



JUNKO ONISHI presents THE ORCHESTRA



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki



ミュージーザスタッフたちにとっての「隠れ家」的ビストロ…♡

ナチュラルな家具とコンクリートが調和した素敵なインテリアのお店。ランチ人気No.2という牛すじシチューのセットは、主食を白米・十五穀米・自家製パンから選べて、小鉢付き(この日はクミンが効いた人参ラペ)で1220円。メインの牛すじシチューはじっくり煮込まれた玉ねぎと牛すじのエキスがたっぷりの濃厚

なデミグラスソースに、女子には嬉しい大きめカットの人参やじゃがいもがごろごろ。自家製パンはおかわり自由、オーダー毎に熱々で出してくれます(隣のお兄さんは3つ!おかわりしてました)。特典のワンドリンクサービスは、通常有料の赤白ワインやビールも選べるそうです。(広報・よ)

M 川崎西口商店街 煮込みビストロ ReEn

☑️ パートナーショップ特典 ワンドリンクサービス
プレミアムモルツ、赤白ワイン、ソフトドリンク クーポン持参者のみ

コンサートと一緒に
もうひとつのお楽しみ!

PARTNER SHOP



↑サービス対象店舗はこのPOPが目印!
スマホからクーポン券を提示するだけ!
クーポン券は7/23~8/11まで
何度でも利用できます。
公演がない日でももちろんOK!

フェスタサマーミュージーザ公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージーザ
#夏ジャン
で検索 & 投稿
お待ちしております!



Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki



ニスト(O)のホールオルガと同じ県出身のホールのオルガが……?!!(か……?)!!

将来何になりたいか聞かれたコジコジは、「コジコジは生まれた時からずーっと将来もコジコジはコジコジだよ」と企業社りほんたスットコジコジを新築再編版「コジコジ」を引用と答えます。んー真理! 先日私のコジコジ好きを知る友人から、「こんな素晴らしいプレゼントをいただきました。これで夏を乗り切れるのかは分かりませんが、暑さでぼーっとしてしまう自分を、少し許せる気がします。」

「この漫画(アニメ)は私にとっての哲学書のような存在です。何も考えていないように見えて、本当に何も考えていないコジコジが発する何気ない一言から、深く考えさせられることが多く、少し参考にするだけで人生が楽になるような気がします。」

日刊サマーミュージーザ

Hobo Nikkan Summer Muza

それにしても暑い……
こんな時は外出を必要最低限に留め、なるべく家に籠りたいものです。最近のお家時間のお供は「コジコジ」。言わずと知れたさくもももこの名作です。彼女のエッセイも面白いですが、

スタッフ日誌